

新幹線情報

2009年 7月22日
第2号

J R 東海労新幹線地本

第15回定期大会

不当弾圧を跳ね返し、全組合員で組織拡大に打って出よう！

7月5日新幹線地本第15回定期大会は、組合員約100名が参加し開催されました。定期大会では、昨1年間の苦闘に満ちた教訓が出され、向こう1年の闘う方針が確立されました。

向こう1年の闘いは、①蒲郡駅事件やえん罪 J R 浦和電車区事件など不当弾圧を跳ね返し、加藤誠二さんと美世志会の完全無罪と早期職場復帰を勝ち取る闘い。②賃金抑制・相次ぐ効率化と労働強化なくして実現しない「リニア中央新幹線」構想反対。③職場の労務管理に対する闘いです。このような闘いを通じて組織の強化を図り、来年15周年の記念大会には各分会で組織拡大を、具体的に実現するために闘うことを確認しました。

14名の発言でも出されていますが職場では、「命令と服従」「規律と忠誠心」の労務管理＝「葛西労政」により、あらゆる矛盾を生み出し自殺者や退職者、長期休職者など、犠牲者が増加の一途をたどっています。まじめに職場で闘う J R 東海労への共感の輪は、日増しに大きくなっています。さらに、職場の諸問題に目を向けて共に異常な会社を変えるための仲間づくりをこれまで以上に積み重ねていくことも確認してきました。

さらに、新幹線電車の足回り＝心臓部で安全を脅かす重大な事態が報告されました。特に、ブレーキディスク取り付けボルトの亀裂やブレーキディスク板の亀裂など何ら原因が明らかにならない中で会社は「継続的な調査と基準を設けて台車交換を実施している。安全上問題ない」というのみです。さらに、N700系でタイヤクリーナーの落失など新たな車両の構造的欠陥も明らかになっています。

また、運輸所職場では些細な事故・事象などに対して見せしめ・責任追及、懲罰的な日勤、教育ならざる「再教育」など再発防止や安全確保とは無縁な安全管理が強行されています。特に、添乗時の指摘事項の乗務報告書の記入強要や東京第二運輸所だけ行われている乗務点呼時の一口試問あるいは、乗務点呼前の乗務員に対して指導科長自らが「対策シート」を強要し、大声で恫喝するなど安全とは無縁な職場であるかの装いをかもし出しています。

これらの発言は、労働組合として看過できない安全の根幹を揺るがしかねない重大な問題として、会社への申し入れはもとより関係省庁への要請を早急に行うことを確認しました。

私たちは、職場での諸問題に対して若い社員の声なき声を聞いて、職場から声を出し要求・運動づくりを通じて、会社による個人への責任追及や「命令と服従」「規律と忠誠心」の労務管理を打ち破っていくために全組合員で奮闘していくことを確認しました。

「命令と服従」「規律と忠誠心」の労務管理を打ち破ろう！